

# 日本風景街道だより

2014年春 Vol.28

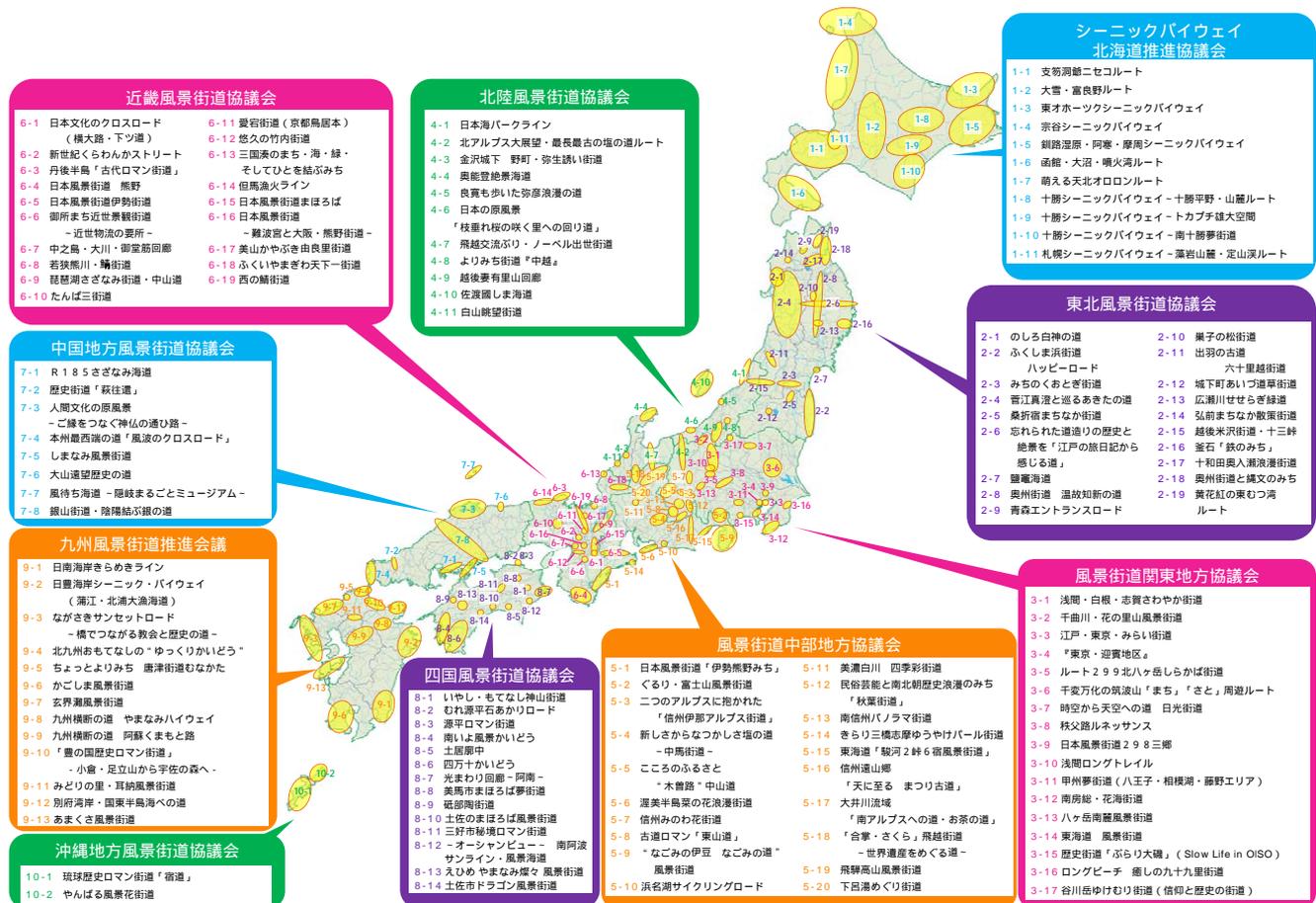
## 日本風景街道は全国で134ルート登録

平成26年3月に九州で1ルート(「あまくさ風景街道」)が、4月に四国で2ルート(「えひめ やまなみ燦々風景街道」及び「土佐市ドラゴン風景街道」)が、それぞれ新規登録されました。

これにより全国で登録されている風景街道は、134となりました。

登録された各風景街道の概要は、日本風景街道ホームページ

(<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>)、もしくは各風景街道地方協議会ホームページで閲覧することができます。



# シリーズ：各地域の風景街道の取り組み

## 秋田岩手風景街道づくり協議会の取組

ルート名：忘れられた道造りの歴史と絶景を「江戸の旅日記から感じる道」

### 1. ルート概要

このルートはかつて秋田街道が通っていた岩手県雫石町から盛岡市までの国道 46 号と、ほぼ宮古街道と重なる盛岡市から宮古市までの国道 106 号間で、約 130 kmあります。ここは道路沿線に残る美しい自然や歴史的な遺産、豊かな食文化に出会えるエリアです。

宮古街道(国道 106 号にほぼ重なる江戸時代の街道)の開削に生涯を捧げた鞭牛和尚の道造りの歴史を顧みながら、江戸時代の旅芸人「繁太夫(しげだゆう)」がこのエリアを歩き綴った旅日記「筆満可勢(ふでまかせ)」で感じる事が出来る庶民の暮らしや伝統文化、習慣、風景、史跡などを現代に重ね合わせ、旧道・旧街道の復活再生、地域資源の活用、道の駅の活用と連携を目指し、活動しています。



霊山・兜明神岳と兜神社（宮古市）



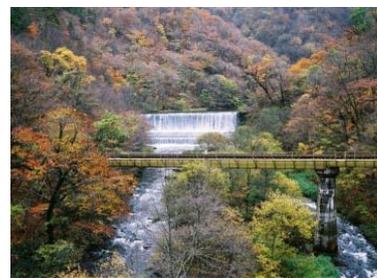
上の橋（盛岡市）



秋田藩と盛岡藩の藩境に立つ碑



小岩井農場（雫石町）



大峠ダムと JR 山田線（宮古市）

鞭牛和尚（べんぎゅうおしょう）とは

牧庵鞭牛和尚。1755 年、東北地方は未曾有の大凶作となり、大勢の人々が亡くなりました。この被害の大きさに直面した鞭牛和尚は、道路開削事業に生涯を捧げることとなります。国道 106 号沿いの地域には、約 20 年間に及び 100km 以上に亘る宮古街道等を開削した功績をたたえた記念碑や暮らした岩屋等が残され、地域住民に大切に守られています。

繁太夫（しげだゆう）とは

富本繁太夫。1800 年代の江戸浄瑠璃の語り手で、江戸で食い詰め、さそわれるままにフラリと船に乗り奥州の石巻に赴きました。それから長い流浪の旅芸稼ぎの日々を詳細に書き留めたものが「筆満可勢」です。天候、収入、出費、習俗、行事、方言等が細かに記録されており、当時の庶民の記録として大変貴重であるとともに、現在との比較としてもおもしろいものです。

## 2. 主な活動内容

### (1) 106 の日ウォーク

宮古街道と国道 106 号を多くの人に知ってもらうため、関係する施設等を探訪する「106 の日ウォーク」を平成 17 年から例年 10 月 6 日に実施しています。

前回(平成 25 年 10 月)実施の 106 の日ウォークでは、「復興支援道路」として整備が進められている「都南川目道路 新川目トンネル」の工事現場見学を通して国道 106 号の必要性・重要性を考えたほか、盛岡市にある寺院で宮古に深いゆかりのある聖壽寺・東禅寺の見学を通して旅日記の舞台である江戸時代の情緒に触れることが出来ました。このイベントは参加者を一般募集していますが、大変好評を頂き、例年多数の方に御参加いただいております。



宮古盛岡横断道路 新川目トンネルの見学



南部藩士墓所の説明

### (2) 国見峠の歴史調査

岩手県、秋田県の県境にある、国見峠・仙岩峠における秋田街道(江戸の道、明治の道)の調査活動を実施し、歴史街道の魅力を広く広報しています。

国見峠・仙岩峠には江戸時代と明治時代に利用されていた道がそれぞれ残されており、当時の痕跡を大いに感ずることが出来ます。一般参加者を対象とした探訪会等も実施しており、歴史街道に詳しい先生をお招きして秋田街道の魅力を伝える活動や、ホームページを利用した情報発信を展開しています。



歴史街道(明治の道)の実地調査



明治の道の道路擁壁の調査



国見峠・仙岩峠物語(歴史街道の調査結果を公表するホームページ)

<http://www.touge-museum.com/>

### (3) 岩手県・秋田県の広域観光を推進する取組

国道 46 号及び 106 号沿線市町の魅力を広く発信し広域観光を推進するため、自治体、観光施設等と連携し、ガイドマップ等の作成を行っています。



### 3. 終わりに

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災で、このルートの一部を構成していた宮古市の鍬ヶ崎地区は甚大な被害を受け消失しました。鍬ヶ崎地区は旅芸人「繁太夫」が長期に滞在し、当時の食や生活の記録を残した場所で、現在でも当時の雰囲気を楽しむことが出来る地域でした。

「宮古」は慶長 16 年(1611 年)の大津波で宮古村が全て流失後に、元和元年(1615 年)、藩主南部利直による新しい都市計画のもとに作られた沿岸の主要な街です。そして、その後宮古は繰り返される津波にも負けず、発展し続けてきた歴史を持つ街でもあります。

秋田岩手風景街道づくり協議会では、再び復興へ動き出した宮古の皆さんと一緒に、新たな魅力あるエリアとして「宮古」のまちづくりに取り組んでいます。

< 執筆者 >

秋田岩手風景街道づくり協議会事務局 阿部恭子

# シリーズ：各地域の風景街道の取り組み

来て、見て、触れて、ほっこりと

ルート名：日本の原風景「枝垂れ桜の咲く里への回り道」

## 1. 来て、見て、触れて、ほっこりと ～徳合人と四季を訪ねて～

新潟県の糸魚川市と上越市の境目にある「徳合地区」の由来は、その昔、この地で大きな天災があり、七柱の神様（菊理姫尊、伊弉冉尊、大己貴尊、龍神、風神、雷神、齊明天皇）が集いそれぞれの「徳」を合わせてお祀りされたことから、この地を「徳合」と名付けたと伝えられています。

この徳合の地には、古来から受け継がれてきた、かけがえのない資産があります。それは、「四季」と「徳合人」です。徳合には、四季の移ろいを表す様々な景色が来訪者の目を楽しませてくれます。美しい四季は、何も自然の景色だけではありません。徳合人とも呼ばれる人情豊かな方々の日々の生活様式や、触れ合い、これもまた徳合が形成する日本の原風景とも呼ぶべき景色なのです。

徳合の歴史を振り返ると、疫病・自然災害・火災・戦争と大変な出来事がありました。近年では道路や上下水道などのインフラの整備も進んできています。住民の数は、明治初期に100軒程あった戸数が、9割程度残るものの、居住人口では、3割から4割になっています。一方、変わってきたことは、昔は地区内での結婚がほとんどでしたが、今では、他の地区や都会からのお嫁さんが多くなってきたことです。

「来て、見て、触れて、ほっこりと」。この徳合の魅力を十分に活かしながら、地域の中で緩やかな経済活動を興し、次の世代に繋いでいくことが、住民の総意です。



ルート概要



徳合の四季



徳合区長 池亀文雄  
農業。徳合地区の沿道4ヶ所にコスモスを植え、秋の沿道に彩りを添えています。



平井講二・幸子夫妻  
農業。稲作と野菜栽培。夏はメロンをハウス栽培しています。幸子さんは「徳合五目押しずし」の達人でもあります。「メロン栽培」



徳合ふるさとの会会長 塚越秋三  
住民による植樹、植栽で緑・花の里作り。行政との海岸・道路や河川の清掃。上越市の関川河川で3htのコスモス畑「リバーサイド夢物語」を15年継続中。



池亀要吉・節子夫妻  
農業。稲作と野菜栽培。夏はオクラをハウス栽培しています。



景德庵(けいとくあん)  
大越初男  
自宅をギャラリーとして公開し、企画展(不定期)等を行ない、徳合を盛り立てています。

## 徳合人

徳合人の活躍の様子はHPへ <http://www.tokuai.com/#sakura>

## 2. 徳合の特産品

徳合の豊かな自然に囲まれて育った山菜や特産品の数々が、地域の自慢となっています。下記は、徳合人の方々が誠意を込めて作る代表的な特産品です。



山ウド



オクラ



メロン



徳合五目押しずし



山芋そば

### 3. 特定非営利活動法人「徳合ふるさとの会」 活動の原点

日本の原風景「枝垂れ桜の咲く里への回り道」の中核を担う活動団体、特定非営利法人「徳合ふるさとの会」は、今から20年ほど前、地域の仲間で徳合の将来について、「もっと明るく住みたくなる」「住民が誇りを持てる地域に」と考え、道路のゴミ拾いや草刈り、樹木伐採をはじめたことが活動の原点です。そのような環境改善活動から、この地域に何が残るかを考え、徳合の地を「植樹による枝垂れ桜の咲く美しい景観を持つ地域」としていくこととなりました。徳合ふるさとの会は、先人が地域のために汗を流してきたものを、今度は次の100年に向けて地域の景観づくりをしていきたい思いから、「100年をかけて、この地域でしか提供できない商品をつくる」ことを活動目的としています。

#### <先人から受け継がれている言葉>

- ・「飾る」より「磨く」こと
- ・「魅力」は、自分たちが創ること
- ・「想い」は、形になる



間伐材を利用した看板



桜の植樹状況

### 4. 百年先を見据えた活動

徳合地区では百年先を見据え、様々な活動に取り組んでいます。今回は、その一部をご紹介します。

#### (1) 百年後の地域を支える桜たち

「徳合ふるさとの会」では、地域内道路の沿線を中心に約320本の枝垂れ桜を植え続けてきました。最近では、桜の種子から苗木を育てることに挑戦しており、数年後には多くの種類の桜が咲きみだれ、地域全体が花の公園になることでしょう。

私たちは、枝垂れ桜という移動することのできない商品が、50年、100年の月日の後に、綺麗な花を咲かせ、人を呼び込み、徳合を必ず救ってくれると信じて活動を続けています。



枝垂れ桜の苗木



河津桜



滝桜



平安枝垂桜



仙台桜

百年後の財産となる枝垂れ桜

## (2) 枝垂れ桜の開花に合わせたイベント

毎年4月中旬の枝垂れ桜の開花に合わせて、棚田、かやぶきの古民家など昭和の面影が残る里山集落の美しい風景など地域資源の魅力をアピールすることを目的に、毎年イベント内容を工夫しながら開催しており、今年はハイキングの開催と古民家でのおもてなしの特設会場を開設しました。

### 1) 枝垂れ桜の花街道を巡るハイキング

県道沿いに植樹した枝垂れ桜を眺めながら自然豊かな徳合地区を満喫するハイキングを4月20日(日)に開催しました。

当日は、市内はもちろん県内外の地域より、子供から年配の方が約110人参加し、満開の枝垂れ桜をバックに記念撮影をしたり、枝垂れ桜の花をカメラに収めたりしながら歩き、昼食時には豚汁とぼた餅がふるまわれるなど、徳合地区で里山の春を楽しんでいました。



桜街道でのハイキング状況



枝垂れ桜を満喫する参加者



昼食時の餅つき状況

### 2) おもてなしの特設会場

4月20日(日)から29日(祝・火)までの10日間、徳合地区に残る古民家にて、絵画展や徳合の特産品を使用したおもてなし料理やカフェ、津軽三味線や二胡・ギターの演奏会などを行いました。

イベント期間中は県内外から約2,000人が来訪し、おもてなしの特設会場と徳合の美しい風景に心を和ませていました。



古民家カフェ



古民家ギャラリー



津軽三味線演奏会

## 5. おわりに

日本の原風景「枝垂れ桜の咲く里への回り道」は、100年をかけて徳合地区の景観を枝垂れ桜を中心とした植栽で満たし、この地域でしか提供することができない価値を創出することで、地域が自立し、ゆったりとした経済活動ができる仕組みづくりを構築していきます。

そして、ご来訪者の方々が「来て、見て、触れて、ほっこり」とするような地域をいつまでも守り続けていきます。皆様のご来訪を心よりお待ちしております。

執筆者

日本の原風景「枝垂れ桜の咲く里への回り道」 行政事務局

# シリーズ：社会資本整備総合交付金等の活用事例

## 地域の魅力を高めるための舞台づくり

ルート名：日南海岸きらめきライン（宮崎県宮崎市～日南市～串間市）  
～魅力ある地域を目指して“つながる”～

### 1．日南海岸きらめきラインの概要

日南海岸きらめきラインは、宮崎市市街地を起点とし日南海岸沿いから内陸を横断して鹿児島県に至る国道 220 号と、220 号から分岐して都井岬を有する半島の周囲をめぐる国道 448 号、更には、日南市から県西部を結ぶ国道 222 号など3つの国道とそれらをつなぐ県道・市道が多数ある宮崎県の宮崎市・日南市・串間市の3市をエリアとしている。

そのエリアで、それぞれの活動テーマを持つ地域愛あふれる 45 の団体と個人が、「日南海岸地域で生まれて良かった、育てて良かった、そして、訪れた人に感動を与え、また来るよと言われるような地域をつくろう」を合言葉に、うつくしの道づくり いやし・もてなしの道づくり 神話と歴史の道づくりの3つを活動の柱として、日々活動を繰り広げている。



日南海岸きらめきラインエリア図

### 2．活動の背景と活動状況

#### (1) 美しい沿道景観の創出〔花で地域を結ぶ一斉活動〕

##### 1) 活動の背景

〔磨かれた風景は宮崎県の貴重な財産である〕

県外から友人や親せきが訪ねてきたら、自慢して見せたい風景として、堀切峠の風景がある。堀切峠に立つと、大きなフェニックスの間から青い空と太陽に輝く海が目の前に広がる。

そこからフェニックスやピロウごしに海を見ながら南下していくルートが、日南フェニックスロード(国道 220 号・国道 448 号)である。

これらの磨かれた美しい風景は、先人たちの大きな努力と県の先進的制度「宮崎県沿道修景美化条例」によって築きあげられた宮崎県の貴重な財産である。

そしてこの美しい風景は宮崎県の風土として根付き、花みどりあふれる美しい景観を愛するという宮崎県民の文化を育てたのである。



コバノセンナの黄色が空と海の青を一層引き立てる沿道景観



道路中央のワシントンニアパームは、宮崎のシンボルの景観

**〔美しい景観資源を受け継ぐ県民の活動〕**

四季の花々で彩られた街並みや、花壇や花木が植えられている集落の道路沿線の景観を、私たちは日常的風景として当たり前と感じている。

しかし、その花々は自然に生えてきたわけでもなく、行政が全てを担ってやっているわけではない。

そこには、花やみどりで彩った美しい街並みや集落で、訪れる人々を出迎えたいという思いから、プランターや花壇に花を植え、水をやり、雑草をむしっている人々がいるのである。



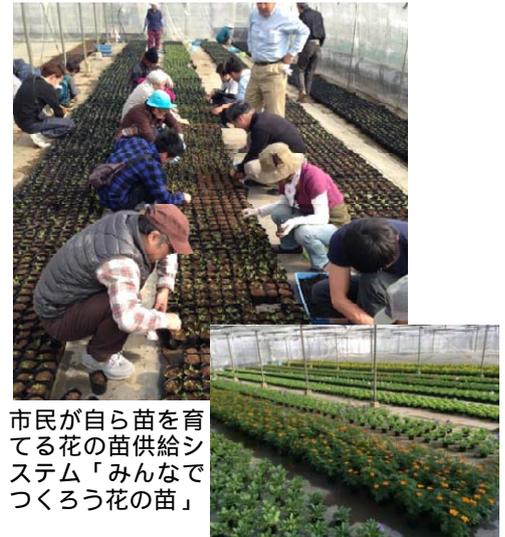
国道の分岐交差点を花壇で彩る活動

**2) 活動状況と今後の展開**

**〔市民が自ら花苗を生産し植栽する〕**

宮崎県が保有する圃場や廃校になった小学校、農家さんのビニールハウスを借り、種まき、挿し木、鉢上げなどの花苗生産工程に市民が参加して自ら生産することによって、コストを大幅に縮減するとともに愛着を持って維持管理することが可能になった。

植栽活動に必要な花苗はルート全体で2万株を超える。そのうち1万数千株は、市民が自ら生産した花苗で賄っている。



市民が自ら苗を育てる花の苗供給システム「みんなでつくりょう花の苗」

**〔地域住民が主役〕**

日南海岸きらめきラインでは、自治会や学校に活動のチラシを配布し、活動団体だけではなく、地域住民が活動の主役になれるような工夫をしている。



家々の門を飾るプランターづくり「まちかど寄せ植え教室」



オープニングイベントの会場づくりも市民参加で「みんなでつくりょうフラワーカーペット」

**みんなでつくりょう ぐるっと青島つるりーフェスタ2014**

青島地域をまるごとフラワーフェスタ会場に仕立てた「ぐるっと青島フラワーフェスタ」は、花みどりで彩られた魅力ある青島地域を全国に発信し、多くの方々に訪れていただくこと2007年から始まりました。7回目を迎える今年は、地域の方々に「ぐるっと青島フラワーフェスタ」をより楽しんでもらうため、4つのイベントを企画しました。青島地区皆様の参加をお待ちしております。

<b>イベント 1</b>	<b>みんなでつくりょう花の苗</b> (午後、午後、それぞれ20名、計40名参加) ◆日時/平成26年1月25日(土) 午前の部10:00～ 午後の部14:00～ ◆場所/宮崎県総合運動公園(折生池)
<b>イベント 2</b>	<b>まちかど寄せ植え教室</b> (プランター90名、ハンギングバスケット30名) ◆日時/平成26年3月14日(金) ◆場所/青島地区体育館(公民館隣り) ◆午前の部10:00～(1～4区、西区) ◆午後の部14:00～(5～10区) ◆お持ち物/通りから見える家の入口に、プランター又はハンギングバスケットを飾ることが出来る方(2係一組を制作)
<b>イベント 3</b>	<b>みんなで植えよう花の苗</b> (50名参加) 日時/平成26年3月15日(土) 受付9:30～ 開始10:00～12:00 集合場所/県立青島豊原高等学校附属(芝生広場) 集合場所/参道入り口交差点、青島駅前、参道商店街、青島グランドホテル前 他
<b>イベント 4</b>	<b>みんなでつくりょうフラワーカーペット</b> (50名参加) 日時/平成26年3月21日(金) 受付9:30～ 開始10:00～11:00 場所/県立青島豊原高等学校附属(芝生広場) 花苗配布/平成26年3月23日(日)17:30～18:30 緑地管理用にて

申込み方法：趣意の申込み用紙に必要事項を記入の上、青島地域センターにお申し込みください。

主催/ぐるっと青島フラワーフェスタ実行委員会・青島地区自治会連合会  
協賛/青島地区花のまちづくり推進協議会・青島地区まちづくり推進委員会  
協力/日南海岸活性化推進協議会・日南海岸地域シビックパイクウェイ推進協議会

楽しいデザインのチラシで市民参加を募る

## 交付金活用事例 / 美しい沿道景観の創出〔花で地域を結ぶ一斉活動〕

### 〔R448 小崎公園かな植栽 & 恋ヶ浦ビーチクリーン 〕

**R448小崎公園かな植栽 & 恋ヶ浦ビーチクリーン**

**期 日** 平成26年 3月 9日(日) (小雨決行)

**集合時間** 午前9:00

**集合場所** 恋ヶ浦「小崎公園」駐車場

**植栽場所** 恋ヶ浦・小崎公園 **植栽本数** かなな球根 200個他

**募集人員** 60名 **参加料** 無 料

**作業内容** 恋ヶ浦の小崎公園にかななの植栽を行い、観音堂に花を移動、清掃活動を行い、終了後、地元産材を使った景観の活る期、いごごいします。(作業は2時間までを予定しております)

**準備** 移植ごて・スコップ等の植栽に必要な道具は各自ご準備下さい。

**申込締切** 平成26年 3月 4日(火)午後4時まで  
この募集は、お申し込みの人数が定員を超えた場合は、抽選となります。

**申込先** 串間市役所 0987-72-1111  
串間商工会議所 0987-72-0254

**主催:**シーニックバイウェイ串間エリア推進協議会  
串間のみちを考える女性の会・広野歩こう会・都井岬遊覧会・串間市鳥島遊覧同好会  
串間市青年団協議会・串間商工会議所・県串間土木事務所・串間市

内容 / 都井岬は日本でも珍しい野生馬(国指定天然記念物)、ソテツ群落(国指定特別天然記念物)と270度太平洋を見渡せる大パノラマが魅力の宮崎県有数の観光地であった。しかし観光客が年々減少し、平成 21 年に岬観光のシンボルでもあった都井観光ホテルが閉鎖し、衰退は急速に加速されていった。日南海岸きらめきラインでも都井岬振興会が中心となって景観整備やイベントの開催など様々な活動を行ってきた。

日南市南郷町から串間市都井岬に至る海岸線の一般国道 448 号は、たびたび災害が発生する箇所でもあり、これまでも防災対策としてトンネル工事や防災工事が行われている。そんな中、少しでも快適にドライブしてもらおうと、交付金を活用し、改良が進んだ箇所の分岐点やトンネルの坑口付近を中心に、美しいカナナでお客さんをもてなす活動を継続的に行い、面積の拡大を図っている。また、沿道にあるサーフィンの人気スポットである恋ヶ浦のビーチクリーンを併せて行ったところである。

壮大な風景を全面的に打ち出した案内チラシ



トンネルが開通し、バイウェイになった展望台(ポケットパーク)にカナナを植える活動



沿道にカナナを植える活動



展望台への案内看板を設置



サーフィンスポットのビーチクリーン

## (2) 地域資源を生かした交流の創出〔着地型観光の創出〕

### 1) 活動の背景

宮崎県の観光客などの推移を見ると、県外からの観光客数及び観光における消費額が平成8年をピークに減少し続けている。また、団体旅行と個人旅行の割合の推移をみると、団体旅行が減少し個人旅行が増加している。団体旅行から個人旅行へ観光が移行するのに伴い、より個人的な関心や興味を満足させる多様な体験・体感型の観光へのニーズが高まってきている。

このような社会情勢の変化の中で、日南海岸きらめきラインでは、昔から暮らしの中で育んできた歴史や文化を交流資源に、訪れる方をもてなし地域活性化に結び付けよう継続的に取り組んでいる。

### 2) 活動状況と今後の展開

地域資源の魅力を知ってもらうとともに、観光客を迎え、神話ガイド、歴史体験、地採れの水産物・農産物を使った手料理などでもてなす取組みを各地域で展開している。このような活動を重ねることによって、体験・食・交流の着地型旅行商品として旅行エージェントから受け入れのオーダーを受けるまでに育ってきた。

今後も、着地型旅行商品を増やし、地域の活力につなげていく。



神官さんが神社にまつわる神話を語る



都井岬野生馬の生態を語るガイドの話にツアーも盛り上がる



伝統行事の再現「シャンシャン馬道中」を楽しむ



四半的体験



人力車体験



地元がもてなす漁師料理は大好評



もてなす側ともてなされる側と一緒に記念写真

地域の自然、歴史文化、食文化等を体感してもらう着地型旅行

## 交付金活用事例 / 地域資源を生かした交流の創出〔着地型観光の創出〕

### 【「私の好きな油津再発見」ツアーイベント】

内容 / 日南市「みなと油津」は江戸時代から鉄肥スギなどの交易で、また昭和の時代はマグロの水揚げでにぎわった港町である。当時をしのぶ堀川運河とチョロ船、赤レンガ館と昭和の町並みなどを活用して、観光客をもてなす活動を行っている。

交付金を活用し、「見る」「作る」などの体験イベントを実施し、歴史的建造物が残る油津地区の脇道散策などを行い、油津地区の歴史・文化の再発見ができた。また、その脇道における通り名の看板修繕を行うことで、観光客のおもてなしにつながった。



脇道散策



マグロ漁に使われたチョロ船の乗船体験（堀川運河）



竹灯籠づくり体験



通り名看板修繕



地どれの魚と昔から伝わる魚うどん、地域の文化を楽しむ。

### (3) 人材育成と多様なネットワークの創出〔日本風景街道大学〕

#### 1) 活動の背景

日南海岸きらめきラインは、活動テーマがそれぞれ違う団体の集まりである日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会と、都市計画や交通などをテーマとした大学の研究室、行政連絡会(国土交通省宮崎河川国道事務所、宮崎県県土整備部と観光部局、宮崎市・日南市・串間市の土木建設・産業商工観光・地域振興の関係各課)のパートナーシップによって運営されている。

興味関心や専門的知識・経験が違う多様なメンバーが一堂に会して学ぶことが、「担い合い・補い合い」の精神で、それぞれが持つ能力を発揮し、円滑なルート運営実現のためには重要なことである。

また、日本風景街道の施策の本質や現状、また、全国的な事例などルート外のことを学ぶことも、ルートを発展させるためには必要であると考えます。

#### 2) 活動状況

平成22年度より、毎年1回2日間、宮崎大学を会場に、1コマ90分、大学の教授、地域づくりのプロ、地域づくりリーダー、マーケティングのプロ、制度のプロなどを講師陣に、コミュニティビジネス、風景の価値創出、連携のコーディネート、制度の活用の仕方など様々なテーマでカリキュラムを組んだ。また、聴くだけでなく、受講生によるグループ討論とその発表も行った。

今後も継続し、この大学の企画・運営チームを若手中心に立ち上げ、大学自体の企画・運営のプロセスを通して人材を育成していく。

#### これまでのテーマ

- 1回目 日本風景街道の理念・最終目標の理解
- 2回目 地域資源を磨き、つなぐ(出雲神話・日向神話・大和神話)  
沿道修景の課題
- 3回目 沿道修景の課題  
国際交流観光について

### 交付金活用事例 / 日本風景街道大学の開講

#### 【第4回日本風景街道大学】

交付金を活用して、以下の内容で第4回日本風景街道大学を開講し、多様な参加者が一堂に会して学ぶことができた。

テーマ:「つ・な・が・る」

#### 講義1. 道の駅が担う日本風景街道の役割

#### 九州における道の駅と風景街道の現状紹介

講師 / 「日本風景街道九州ネットワーク代表理事 樗木(ちしゅき)氏」

#### 道の駅と風景街道の現在の連携事業

- ・ 「道の駅」と「九州風景街道」をセットにしたマップを販売(150円)

#### 道の駅と風景街道の連携の可能性

- ・ 情報発信(常設的展示)
- ・ 多彩な九州風景街道の活動拠点としての利用
- ・ 物産館の活用 など

#### 「道の駅」と「風景街道」連携の課題について

- ・ 道の駅の大半が指定管理 風景街道の活動体、道の駅、地方自治体3者のつながりと意志疎通が大切
- ・ 観光協会とも連携することが必要

【テーマ】 つ・な・が・る

【日時】 平成26年1月10日(金)午後～11日(土)朝  
1日目/昼食、2日目/現地研修+グループ討論  
※1日研修から、受講可能です。

【会場】 宮崎大学(本館キャンパス)図書館3階  
(宮崎市学園南本町1丁目1番地)

【定員】 80名 (要予約) 無料

【受講費】 つながりたい方、学びたい方、どなたでも。

【講師】 石田真生氏 (国研大学 教授)  
樗木 武氏 (一社) 日本風景街道九州ネットワーク 代表理事  
松野孝幸氏 (国研大学 准教授)  
田中幸治氏 (NPO 日本風景街道九州ネットワーク 副会長)  
飯島大輔氏 (NPO 熊本県ふるさと推進機構 代表理事)  
石田建也氏 (NPO 九州観光文化振興 代表理事) 他

【申込み】 詳細申込書にて1月7日までに FAX又はMailにてお申し込みください  
【問い合わせ】 日本風景街道シーニックバイウェイ推進協議会  
事務局 松野 武氏  
FAX:090-2700-8399 / E-mail: taijigo@naramaki-rinc.com

【主催】 日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会、特定非営利活動法人 日本風景街道コミュニティ  
【協賛予定】 宮崎大学、(一社) 日本風景街道九州ネットワーク、(一社) シーニックバイウェイ支援センター、  
宮守ふれんど、 風土がデザイン研究会、都市計画学会九州支部、国土交通省九州地方整備局、宮崎県、  
宮崎市、日南市、串間市

【日本風景街道の趣旨】  
日本風景街道は、郷土愛を育み、日本列島の魅力や美しさを発見し、創出する多様な主体のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な風景を創出する運動を促します。これをもって地域活性化、観光振興に寄与し、国土文化の発展の一助となることを目的としています。

## 講義2. 学生がつなく人と地域

### 宮崎大学生が地域とつながる取組み紹介

講師 / 「宮崎大学 根岸准教授」

なぜ学生と地域がつながってほしいのか

- ・ 学生の傾向として、授業にはよく出席するが、社会と関わりを持とうとしない
- ・ どう学生を育てるか、どう社会力をつけるか/社会力:人と人がつながり社会をつくっていく力
- ・ 自分の住んでいる地域のことを語れるようになってほしい

地域とつながる取組み例

- ・ 地域の人が大学で学生に取組み(綾町地域づくりWGによる講義)
- ・ 地域に学生が関わる取組み(宮崎商店街にて、プレーパーク、学童保育等)

学生が果たす「まちなか」での役割と今後について

- ・ これまでの「まちなか」は単なる商業施設だった
- ・ これからは、「人が行き交う遊び場、こどもの遊びを通して中心市街地や地域社会の活性化を目指す」



講義は宮崎大学において開催

## 講義3. 桜島ミュージアムがつなく人と地域

### 桜島をまるごと博物館と考える桜島ミュージアムの取組み紹介

講師 / 「NPO 法人桜島ミュージアム 理事長 福島氏」

桜島ミュージアム、桜島をまるごと博物館と考えてみる

- ・ NPO 法人として指定管理を受け、来場者数を2倍に(ピジターセンター)

質の高い観光の提供

- ・ 体験型観光:修学旅行向け体験 40校 4,000人を案内
- ・ 着地型観光:溶岩でピザ釜作り&ピザ作り(年間を通して利用可能)
- ・ 着地型観光とは、旅行者を受け入れる側の地域(着地)側が、その地域でおすすめの観光資源を基にしたプログラムを企画・運営

外に流通していなかったものを流通させる取組み

- ・ 桜島つばき油のブランド化(椿油で地域を元気に)

カタログ的地域資源の発信から、よりエッジの効いた地域資源を発信

- ・ 地域で動くNPOとして、「ジオ(地球)」にターゲットに絞った活動
- ・ 「桜島・錦江湾ジオパーク」に認定(平成25年9月24日)されたことをうけ、「地球が遊び場、地球が学び場!」モデルコースを作成



多彩な講師陣の講義に、参加者も興味津々

## 講義4. 「異」から生まれる連携の可能性

### 静岡と他の地域が連携した取組み紹介

講師 / 「NPO 法人地域づくりサポートネット 副会長 田中氏」

地縁展開:地域と地域を結ぶ「ご縁」とは

- ・ 地域振興は、軸を持った地域同士が連携することで新たな可能性が生まれる

地縁展開を阻む要因を解決し、つながるには

- ・ 地形・地理の壁は空港を整備(例:富士静岡空港と九州、北海道の結びつき)
- ・ 制度・仕組みの壁は、「日本風景街道」に期待し、地域から動き、改革する。

「地縁店」展開事業(地産他消、互産互消)について

- ・ 十勝から食材を仕入れ、静岡で飲むヨーグルトとして提供
- ・ 継続的にヒト・モノ・情報が動くか(形式的な交流から継続的になるか)
- ・ 両地域に共通するテーマを活かせるか(十勝開拓の祖 依田勉三)
- ・ 両地域に共通する仕組みを活かせるか(日本風景街道静岡県 3ルートと北海道十勝・帯広 3ルート)

## 講義5. 現地研修

### その1【青島周辺地域資源調査】

青島マップで散策

- ・ 4班に分かれ、青島マップを手に散策
- ・ 青島周辺について気づいたこと、マップそのものについて気づいたこと(改善してほしいこと)を記入する。

地域の人と「つ・な・が・る」

- ・ 見学場所に現地の案内人がおり、地域の人とつながる。

青島の味を知る

- ・ 昼食は、おばあちゃんと孫のコラボ弁当

### その2【過去の災害と防災教育】

講師 / 「語り部 芳司 城春氏」

寛文2年(1662年)に日向灘沿岸で起きた大地震により、木花地区の一つの集落が沈んでしまった大災害「外所大地震」の教訓を、語り部が紙芝居で上演。日ごろは色々な場で子供たちを対象に、紙芝居の上演を通して防災教育を行っている。

災害に見舞われた地域では、今も、大災害を伝える石碑を50年に一度建立し、現在は7基が災害の教訓を後世に伝え続けている。

南海トラフ・日向灘沖などの大地震は、長いサイクルで起きる。この地域のように、過去の災害の教訓を元に何百年も後世に伝え続けることの大切さ、そして、その手法などを学んだ。



地域がつくった「まちあるきマップ」



江戸時代からの製法を守る醤油蔵



紙芝居で伝える津波防災教育

## 講義6. 文化でつながる

### NPO文化本舗の取組み紹介

講師 / 「NPO文化本舗 代表理事 石田 達也氏」

NPO活動支援について

- ・ 遊休施設(宮崎県庁職員宿舎)を「みやざきNPOハウス」として運営
- 自然・環境教育関連事業・地域づくりの取組みについて

- ・ 宮崎県綾町の照葉樹林を世界へ、100年計画のプロジェクト 人口7,000人の町から有機農業の町・照葉樹林都市へ 「綾地域」が平成24年7月、ユネスコエコパークへの登録決定。
- ・ 花のもてなしで知られる宮崎における花ボラネットの紹介(花を飾るエリアをつなぎ、ポスター・ステッカーを掲示して花のもてなしを紹介)

地域づくりについて

- ・ 地域づくりとは、活動を通して、地域や社会をデザインすること
- ・ 地域にある、人、建造物、歴史・文化、伝承など、その魅力を再発見し、その地域の人に知ってもらうことが大切



能楽堂の舞台を会場に最後の講義が終了し、達成感の笑顔あふれる記念写真

## 風景街道地方協議会及び連絡窓口はこちらへ

風景街道の活動を積極的に支援するために、各風景街道地方協議会に連絡窓口を設置しております。  
日本風景街道に関するご相談等がございましたら、風景街道地方協議会の連絡窓口までご連絡下さい。

### 風景街道地方協議会の連絡窓口一覧

担当部署	担当者氏名	電話番号
シーニックバイウェイ北海道推進協議会 (北海道開発局 建設部 道路計画課 内)	畑山 朗	011-709-2311(代表) (内線 5845)
東北風景街道協議会 (東北地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	増澤 亨	022-225-2171(代表) (内線 4256)
風景街道関東地方協議会 (関東地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	石浜 康賢	048-601-3151(代表) (内線 4252)
北陸 風景街道協議会 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課 内)	杉 浩行	025-280-8880(代表) (内線 4213)
風景街道中部地方協議会 (中部地方整備局 道路部 計画調整課 内)	稲垣 光正	052-953-8171 (内線 4312)
近畿風景街道協議会 (近畿地方整備局 道路部 地域道路課 内)	南條 耕平	06-6942-1141(代表) (内線 4612)
中国地方風景街道協議会 (中国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	糸原 保	082-221-9231(代表) (内線 4613)
四国風景街道協議会 (四国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	黒口 貴弘	087-851-8061(代表) (内線 4612)
九州風景街道推進会議 (九州地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	石橋 賢一	092-471-6331(代表) (内線 4252)
沖縄地方風景街道協議会 (沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 内)	大城 照彦	098-866-1914 (内線 4353)

### 【ご意見をお寄せください】

日本風景街道だよりは、地域の皆様へ様々な情報を提供することを目的に年 4 回程度発行する予定にしています。掲載内容などご意見・ご感想がございましたら、下記までお気軽にお寄せください。

## 日本風景街道だより

発行：国土交通省道路局環境安全課道路環境調査室  
東京都千代田区霞が関 2 - 1 - 3  
TEL: 03-5253-8497 FAX: 03-5253-1622

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>